

普通期水稻栽培暦 (令和4年12月作成)

南さつま農業協同組合
南薩地区農林技術協会
南薩地域米・麦・大豆等生産対策協議会

環境保全型農業に努め、肥料・農薬の適正使用と飛散防止に心がけましょう！

うまい米・売れる米を作りましょう！

区分	月(旬)		6月			7月			8月			9月			10月			11月	
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上			
稲の一生と 管理作業	ヒノヒカリ	育苗準備 箱塩種浸は 消毒水子種 毒選消毒	基肥	田植期	間断かん水		中干し	穂肥	周辺雑草 イネ科牧草 除草・収獲	出穂期	乳熟期				落水(収穫7日前)	成熟期 刈り取り 青刈率10~15%	秋冬耕		
	ヒノヒカリ	かん水 間断かん水																	
主な対象病害虫と農薬	病害虫名	◎ 基幹防除 ○ 補完防除(発生の多い時に防除)			◎ いもち病・ウンカ類・コブノメイガ			○ スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)			○ 稲こうじ病(出穂2~3週間前)			○ ウンカ類(セジロ・トビイロ)			○ カメムシ類 ○ ノンブラストレバリダ粉剤DL		
	農薬名	ダコレート水和剤 スミチオン乳剤 モミガードC水和剤 イチバン タチガレエースM粉剤			スクミノン (スクラム箱粒剤は紋枯病に効果あり)			またはZボルドー粉剤DL モンガリット粒剤 アブロードフロアブル			スタークル粉剤DL			スタークル粉剤DL			スタークル粉剤DL		
量(10アール)	箱6 5 8 g	箱0.5 g	箱50 g	1 5 4 kg	1 3 0 0 0 kg	3 5 4 4 0 kg	3 5 4 4 0 kg	3 5 4 4 0 kg	3 5 4 4 0 kg	3 5 4 4 0 kg	3 5 4 4 0 kg	3 5 4 4 0 kg	3 5 4 4 0 kg	3 5 4 4 0 kg	3 5 4 4 0 kg	3 5 4 4 0 kg	3 5 4 4 0 kg		

うまい米を作るために
次の点に注意しましょう

適期刈り取り
適期防除
土づくり
種子更新・健苗育成

適正な栽植密度を守りましょう!
(疎植気味の水田が多く見られます)
・ 1㎡当たり18株以上は植えましょう
・ 田植機の設定は、坪当たり60株以上、株間18cm以下で植えましょう

病害虫の発生情報は
病害虫防除所のテレホンサービス
099-296-6430
<http://www.ipnn.jp/kagoshima/index.html>

除(抑)草剤 使用基準			使用回数(回以内)	水田一年生雑草	マツバイ	ホタルイ	キシユウスズメノヒエ	ミスガヤツリ	クログワイ	コウキヤガラ	オモダカ	ウリカワ	ヒルカシロ	アオミドロ	藻類による表層はく離
クサトツタ1キロ粒剤	移殖時 ※田植同時散布機で施用する場合 移殖直後~ヒE2葉期(但し、移殖後30日まで)	1kg	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
サラブレッドフロアブル	移殖時 ※田植同時散布機で施用する場合 移殖直後~ヒE2.5葉期(但し、移殖後30日まで)	500ml	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
サラブレッドKA11キロ粒剤	移殖時 ※田植同時散布機で施用する場合 移殖直後~ヒE2.5葉期(但し、移殖後30日まで)	1kg	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
エンペラー豆つぶ250	移殖時 ※田植同時散布機で施用する場合 移殖直後~ヒE3葉期(但し、収穫75日前まで)	250g	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
クラッシュEXジャンボ	移殖後3~10日(ヒE2葉期まで)	10個(500g)	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ミスターホームランジャンボ	移殖後3日~ヒE2葉期(但し、移殖後30日まで)	10個(500g)	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ザークD1キロ粒剤51	移殖後5日~ヒE3葉期(但し、移殖後30日まで)	1kg	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
バサグラン液剤	移殖後15~55日(但し、収穫50日前まで)	500~700ml 散布液量70~100g	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
クリンチャーEW	移殖後20日~ヒE6葉期(但し、収穫30日前まで)	100ml 散布液量25~100g	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
モゲトン粒剤	発生始~発生盛期(但し、収穫45日前まで) ウリカワの増殖初期(2~4葉期)またはヒルカシロの発生始~増殖始(但し、収穫45日前まで)	2~3kg 3~4kg	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
グラスショート液剤(抑草剤)	雑草生育初期(草丈10cm)及び草刈り後10~20日の雑草再生期(但し、収穫前日まで)	300~500ml 通常散布液量50~100g 少量散布液量25g	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※ ジャンボ剤と豆つぶ剤の使用にあたっては、水の出入りを止めて5~6cmの湛水状態にし、処理後少なくとも3~4日間は通常の湛水状態を保ち、落水やかけ流しはやめましょう。
※ 農薬の登録状況は、令和4年12月現在です。
※ 農薬の使用にあたっては、容器包装に表示してある使用方法を確認して使用してください。

<あきほなみ、あきのそら等を作付する場合>
ヒノヒカリと施肥・防除・水利用体系が異なりますので、品種ごとの圃地化や、品種特性に応じた作業を行ってください。

土づくりと施肥設計(単位:10アール当たり)

収穫後、できるだけ早めに散布しましょう。
完熟堆肥 地力維持・向上のため堆肥を施しましょう。
①牛ふん堆肥の場合 1,000kg
土壌改良資材
①ケイテツ 100kg 秋落ち・倒伏防止
②ケイカル 100kg 病害虫抵抗性増大
③鉄入りエンリッチ40号 100kg ケイ酸鉄、リン酸等の補給
④アヅミン 20~40kg 腐植、保肥力向上
⑤シリカサポート1号 40~80kg ケイ酸鉄、リン酸等の補給
⑥農カアップ 60~100kg ケイ酸鉄、リン酸等の補給

※化学肥料を減らすために野菜栽培後は減肥しましょう。

肥料名	基肥	穂肥	成分含有量			
			窒素	リン酸	カリ	苦土
ヒノヒカリ例						
① ヒカリエース2号(10-18-14-3)	40kg		6.0kg	7.2kg	7.6kg	1.2kg
② BBNK77(17-0-17-0)		12kg				
③ 水稲一発くん・普通期用(12-14-16-1)	50kg		6.0kg	7.0kg	8.0kg	0.5kg

※肥料名の(): 窒素-リン酸-カリ-苦土の成分割合

殺菌・殺虫剤 使用基準		使用回数(回以内)	苗立枯病	ばか苗病	イネシソノガレセンチュウ	いもち病	紋枯病	稲こうじ病	スクミリンゴガイ	ツマグロヨコバイ	ウンカ類	コブノメイガ	カメムシ類	イナゴ類
タチガレエースM粉剤	は種前、育苗箱土壌均一混和	1	○											
モミガードC水和剤	浸種前、200倍液、24時間浸漬	1	○		○									
スミチオン乳剤	は種前、1000倍液、6~72時間浸漬 収穫21日前まで、1000倍液	2			○							○		
ダコレート水和剤	は種時、400倍、灌漑 は種時~緑化期(但し、移殖14日後まで)	2			○									
防人箱粒剤	は種時(覆土前)~移殖当日	1				○						○		
スクラム箱粒剤	は種時(覆土前)~移殖当日	1				○						○		
スクミノン	収穫60日前まで	2						○						
バサ粉剤30DL	収穫7日前まで	5							○					
アブロードフロアブル	収穫7日前まで	4							○					
モンガリット粒剤	収穫45日前まで	2						○						
Zボルドー粉剤DL	出穂10日前まで	-						○						
ノンブラストレバリダ粉剤DL	収穫14日前まで	2						○				○		
トレボン粉剤DL	収穫7日前まで	3							○			○		
スタークル粉剤DL	収穫7日前まで	3							○			○		
スタークル粒剤	収穫7日前まで	3							○			○		

※ スミチオン乳剤は、メーカーによって水稲に登録のないものがあります。
※ ダコレート水和剤は、メーカーによって使用時期、使用回数異なるものがあります。
※ 防人箱粒剤及びスクラム箱粒剤は、は種時に散布する際は必ず覆土前に散布しましょう。
※ モンガリット粒剤とZボルドー粉剤DLは、出穂前10日~21日が稲こうじ病の散布適期であり、去年発生した水田には、必ず散布しましょう。

<黄萎病・縞葉枯病の耕種的対策>
収穫後早期に耕して、再生イネ(ひこばえ)の発生を抑えるとともに、休耕田や畦畔等の周辺を含む冬雑草も除草しましょう。

スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)の発生ほ場では
① 冬場にロータリーをかけた殺菌しましょう。これは寒い時期が効果的です。
② 卵の塊をできるだけ除去しましょう。
③ 田植後は浅水管理にしましょう。